

図書館だより

No.1 (2014.04)

発行：東京未来大学図書館

〒120-0023 東京都足立区千住曙町 34-12

TEL：03-5813-2525 FAX：03-5813-2529 URL：http://www.tokymirai.ac.jp/



創刊のことば

図書館長 福崎 淳子

開学から8年目を迎える本学図書館において、この度「図書館だより」を発刊することになりました。本学の図書館は、開学当初から、正門の前にそびえ立つ時計塔につながる研究棟の2階に位置しています。本学のシンボルでもあるその塔につながっている図書館は、情報の貯蔵庫でもあり、知の象徴といっても過言ではありません。

書棚に並ぶ本を手にしなが、醸し出されるその書籍のにおいととも、新たな知との出会いや知への創造が紡ぎだされる空間でもあるといえるでしょう。ときには、書棚に並んだ本の背表紙から新たなイメージが生まれてくることもあるでしょう。一方で、デジタル技術による情報機器の発展にともない、紙媒体による本だけではなく、インターネットによる情報や電子化された書籍・雑誌も増加し、図書館という空間から離れたところでも収集することが可能な時代になっています。しかし、大学の図書館は、その空間でなくては得ることのできない知識が、創出される場でもあるのです。書籍に囲まれた静かな空間における本との対話は、未知の知識への

架け橋となり、豊かな思考が自己を輝かせます。さらに学生や教職員がともに学び合う場にあるからこそ、互いの思考を交差させながら、過去と現在の知を紡ぎ、未来の知へとつながっていただけることもあるでしょう。

人は、たえず新しい刺激や情報を求める欲求を生得的にもっているといわれています。ともに学び合う学び舎のシンボル塔につながる本学の図書館は、学生のみなさんの知への欲求を満たす場になることを願っています。そして、一般教養をはじめとする専門図書や設備のさらなる充実をはかっていると考えています。

この「図書館だより」は、図書館への関心が高まり、知の絆が膨らんでいくことを願いながら、まずは年2回の発刊をめざしています。みなさんが、図書館に親しみをもって、足を運んでくださることを心から願っています。

最後に、創刊号の発刊にあたり、本誌に寄稿して下さった方々、編集の労を担って下さった方々に深く感謝申し上げます。



創刊によせて「本を読む」きっかけの始め

学長 大坊 郁夫

大学の教員が本と言うと、「うんざり」だと思える人もいるでしょうが、少しおつき合ってください。本といっても随分と様々です。教科書、宿題やレポートの課題など、なにかを「しなければならぬ」ための本は確かに「うんざり」の対象になりやすいですね。でも、友だちが目を輝かせながら、自分の知らなかったアイデアや知識を話し、それが彼（彼女）の読んだ本にあったことだとすると俄然興味が湧いてきます。誰もがそうですが、強いられない、興味のあることには自らが動くものです。本を読むきっかけはささいなことであり、どこにでもあります。まずはそんな偶然の楽しみから始めましょう。

本学の図書館内を巡ってみてください。本学らしく、心理学、教育関係の本は多くありますが、他にもたくさんの種類

(小説、画集、絵本、言語以外の辞典や医学、自然科学関係など)の本などもあります。偶々手に取った本をパラパラとめくってみてください。なにか見慣れた言葉がある、友だちとの会話で出て来た単語がある。そうしたならば、その頁だけでも、あるいはもう少し読んでみる。そんなことから、本とは馴染みになるものです。単語を見、フレーズを追う、そして文章を読む。音としての言葉から形（文字）としての言葉はまた違った意味を語りかけてくるはずですよ。

手始めに詩集を手にとってみませんか。多くは短い文でするのでさらっと読めます。言葉やフレーズを楽しむことができます。著者の世界に留まることなく、自分なりに想像の世界を自由にかけめぐりきっかけを与えてくれます。

司書のつぶやき

図書館司書 伊藤 結美

みなさんこんにちは、いよいよ新学期がはじまりましたね。新入生はもちろんのこと、学年の上がった学生も、気持ちを新たに張り切っている人が多いのではないのでしょうか。

今回は図書館だよりも創刊号ということで、ここでは図書館の利用について紹介していきたいと思います。中でもみなさんに知ってもらいたい「図書館でできること」を紹介します。

図書館では基本的に、周りに迷惑をかけることや飲食をせず、一人で静かにできることであれば、何でもできると考えてください。読書、勉強、レポート作成、ネットサーフィン、写経、瞑想などなど、なんでもOK。図書館では静謐な雰囲気の中で、集中して物事に取り組むことができます。また、新聞や雑誌を読んだり、コピーをとったり、

DVD・ビデオを観たり、本やPCの貸し出しをすることもできます。司書の状況を鑑みて、ちょっとした雑談や悩みを持ち込んでみるのもよいでしょう。（※場合によっては話を聞いてもらえないこともあります。見極めが大切。）

わたしたち司書は、利用者への対応だけではなく、資料の受け入れや管理、整備、書棚の整理など、様々な業務に日々追われています。「〇人の星」の台詞にある白鳥と同じで、一見のんびりとしているようで、水面下では必死なのです。（実際のところ、白鳥は足を必死に動かさずとも浮かんでいられるらしいですが…）そのことをご理解いただき、今後も図書館のご利用をお願いいたします。図書館では4月から新しい職員を迎え、みなさんのご利用を、首を長くしてお待ちしています。

館内案内

未来大の図書館って、どのようなスペースがあるのでしょうか？ここで、写真とともにご紹介したいと思います。

● ラウンジ

入口のすぐ右手側には、リラックスして座ることができる椅子が並んでいます。目の前の棚には書籍、左手のラックには学術雑誌が置かれています。ここで読書したら、格好良い…かも？



● 自習スペース

入口からまっすぐ奥に進むと、少しずつ静かになっていき、自習用の机が並んでいます。ノートを広げて自習するのもよし、PCを借りてレポートを書き上げるのもよしですね。

● 教科書の展示棚

司書カウンターの向こう側には、小中高の教科書がずらりと並んだ棚があります。教育関係のお仕事に興味がある人にとっては、きっと役立つコーナーになりそうですね。





おすすめの1冊『海賊と呼ばれた男』

副学長 近藤 俊明

本の面白さは、知らなかった世界に入り、そして、深く物事が見えるようになる、ということだと思います。

『海賊と呼ばれた男』は、最近読んだ本の中で、特にこのような経験をした本です。筆者は、百田尚樹。

主人公は、出光佐三（文中では国岡）、出光興産の創業者です。海外に事業を展開していた同社は、敗戦によってそのすべてを失い、本社の社屋だけが、焼け野原の東京、銀座にポツンと残っていました。

社員が、外地から少しずつ引き上げて来ます。しかし、仕事は無い。誰も解雇はしないと宣言した国岡は、仕事を探せ、どんな仕事でもやれ、と檄を飛ばす。漁業、瓦礫処理、稼ぎになることは何でもやる。圧巻は、空になった全国の石油タンクに潜り、底に溜まった汚泥をさらう作業でした。

GHQの指令ですが、どの会社もやらない。儲けにならず、タンク内の熱さとガスで死の危険性さえあるからです。しかし、国岡は、「利益のためにやるのではない、日本のためにやる」と決断します。社員も、喜んで、これをやり通します。

国のためとはいえ、なぜ社員は命までかけて働くのか。そこには、国岡の信念と、社員とのつながりがあります。

日本は、石油のために戦争に突入しました。戦い、三百万人が死に、多くの都市は焼けました。そして、敗戦。しかし、生きる戦いは今も姿を変えて続いている。それが、読みながら見えてきます。

最後のあたりで、何年かぶりで泣きました。皆さんの目は、この本の中に、何を見るのでしょうか？

学生の声

M3A 大久保 慧 悟

「本って、いいな」。何を書くか、のんびりと考えていたらそう思いました。小説には自分の考えた事のない世界がありますし、専門書には、これまで研究者たちにより積み重ねられてきた知見がまとめられています。改めて考えてみると、これって凄いことなんじゃないかなと思います。図書館では、そんな本をタダで読むことができるのですよね。実は、これも、凄いことなのかもしれません。

そんなことを言ってみたものの、私、「借りる」より「買う」派です。書店にふらっと立ち寄り、棚を眺め、気になれば、その場で買うことが多いです。しかし、大学に入学するとそれが難しくなりました。専門書って、高いです。多くは一冊2500円以上します。

そんな時、私は、学生リクエスト制度を利用しています。カウンター横のラックに、リクエスト用紙があるのをご存知ですか。この用紙に購入してほしい本の情報を記入し、司書さんに提出すると、購入を検討してもらえます。これまでに沢山の本をリクエストしましたが、ほとんどを購入してくれました。学生の希望を大切にしてくれるように感

じます。

しかし、リクエストが通るまでには約1ヶ月かかります。私なんかはせっかちなので、リクエストを出しておきながら、待ちきれなくなり購入してしまうことも少なくありません。難しいかもしれませんが、少し検討にかかる期間が短くなると嬉しいです。

今、私は3回生ですが、入学時よりも図書館が使いやすくなってきています。学生のために良い環境を提供しようと試行錯誤してくださる司書さんと先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

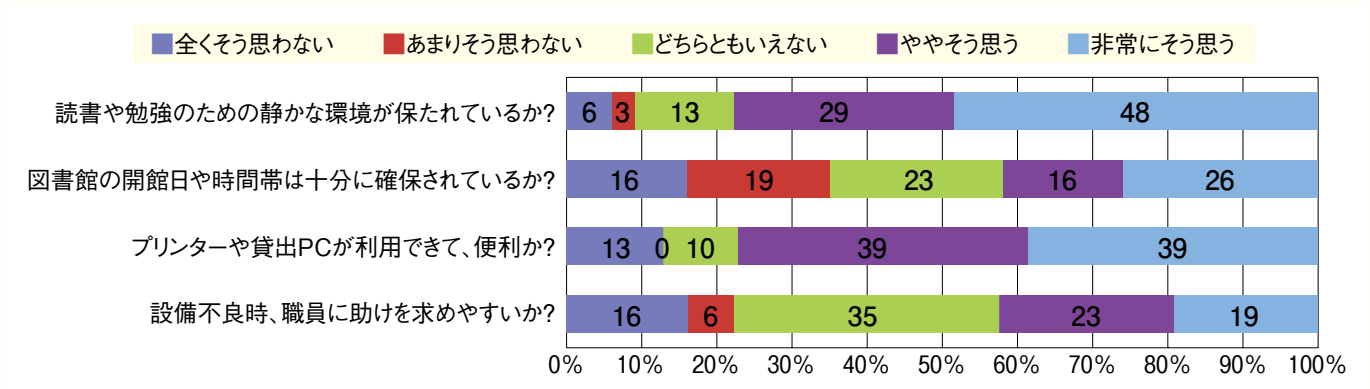


図書館だよりの名称募集

図書館だよりは、学生の皆さんと一緒に作っていきたくて考えています。そこで、皆さんにお願いがあります。「未来大の図書館だより」に名前をつけてあげてほしいのです。実は、この図書館だよりを作成するにあたり、他大学の図書館だよりを調べてみたのですが、その多くにはユニークで素敵な名前がつけられていました。十数年後の未来大生が図書館だよりを手にとったとき、「いい名前だな」と思ってもらえる気の利いた名前を募集します。図書館のカウンターに募集箱を置いておきますので、ご提案をどうぞよろしくお願いいたします。

図書館利用に関する学生アンケート

学生の皆さんは、図書館のことをどう思っているのでしょうか？ H25 年度に行ったアンケート結果の一部をご紹介します（有効回答数 31）。グラフの数値はパーセンテージを表しています。（小数点以下は四捨五入）



図書館を静かで勉強しやすいと思っている人が大半で、貸出 PC やプリンタ、設備不良時の EM 局の対応についても好意的な評価が多いようです。開館時間については短く感じる人がいることも考慮され、H26 年度から、平日は、20 時まで延長されました。

図書館の利用状況・蔵書数

表 1 は図書館の利用状況、表 2 は蔵書数のデータです。H25 年度は H24 年度と比べて、利用者数、貸出冊数ともに大幅な増加が見られました。また、蔵書数についても大幅に増加したことが分かります。

表 1 図書館の利用状況

	利用者数 (人)	貸出冊数 (冊)	開館日数 (日)
H24 年度	5,693	2,797	273
H25 年度	16,899	5,884	236

表 2 蔵書数

	図書 (冊)	AV 資料 (個)	雑誌 (種)
H24 年度	37,137 (うち洋書 4,308)	435	234 (うち洋雑誌 35)
H25 年度	41,139 (うち洋書 4,513)	522	243 (うち洋雑誌 37)



編集後記

良い大学とは、どのような所でしょうか？個人的には「図書館が活気づいている大学」ではないかと思います。何かを知りたい、学びたい、考えごとをしたいとき、図書館は大学生に最適な環境を提供してくれます。図書館がにぎわっているということは、一生懸命な学生さんが多いといえます。教員からしてみると、とても心弾みます。図書館をもっと活性化したい…そんな思いから、この図書館だよりは生まれました。大学の図書館は、高校や町の図書館とは異なり、専門的な知識が詰まったオンリーワンの「知の拠点」です。未来大もそうです。こどもの心理や保育、モチベーションの書籍がたくさんあるだけでなく、今後もますます増えていくことでしょう。このような特徴をもつ図書館は、きっと日本ではここだけです。図書館だよりでは、本学ならではの情報発信ができれば良いなと考えています。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。
(図書館管理運営委員 竹橋洋毅)